

## 鎌倉市交通計画検討委員会・専門部会 (仮称) 鎌倉ロードプライシングについて

鎌倉市では、地区交通計画の見直しや新たな施策について検討するため、平成 24 年 5 月に市長の諮問機関として、市民、商工業者、交通事業者、関係行政機関の職員、及び学識経験者で組織する、鎌倉市交通計画検討委員会（以下「検討委員会」という。）の設置と、下部組織として鎌倉市交通計画検討委員会・専門部会（以下「専門部会」という。）を設置しました。専門部会では、平成 25 年 10 月から、交通渋滞の解消策の一つである、(仮称) 鎌倉ロードプライシングの内容について検討を始めました。

しかし、一部市民等の方々に、(仮称) 鎌倉ロードプライシングの内容について、誤解が生じております。

こうしたことから、誤解を招かぬよう現在、専門部会で検討している内容と検討経緯等を公表することとしましたので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

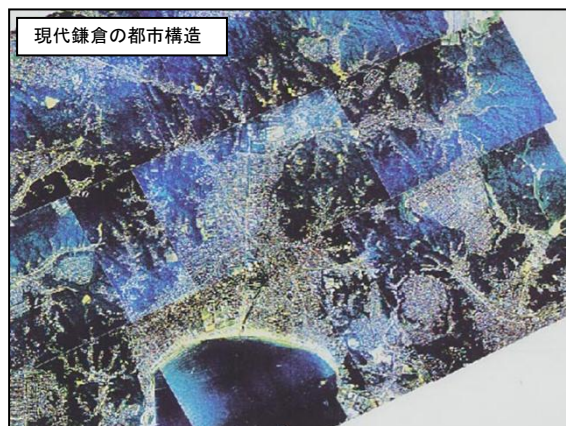
なお、ここにお示しする途中経過の公表に際しましては、検討委員会委員長と相談の上、広く市民の方のご理解をいただくために必要と判断して進めております。専門部会で議論すべきことはまだ多く残っていますし、今後さらに検討委員会で検討を重ねる必要がありますので合わせてご理解ください。

### (仮称) 鎌倉ロードプライシングの専門部会素案 (2014 年 5 月時点)

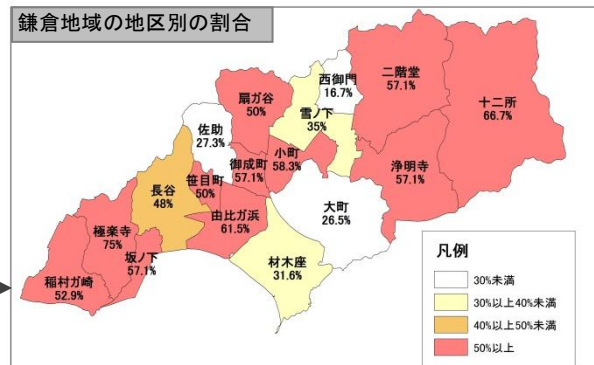
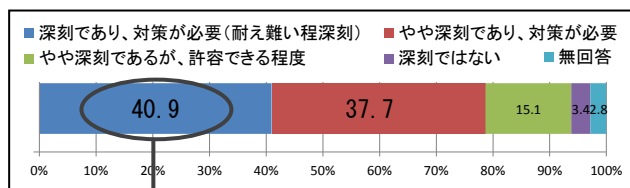
1. (仮称) 鎌倉ロードプライシングの目的は、住宅地と観光地が共存する鎌倉地域の交通渋滞の解消及び市民の居住環境の回復です。
2. (仮称) 鎌倉ロードプライシングは、道路利用者から課金した費用により、道路整備、公共交通の充実、パーク&ライド駐車場の拡充等を進めるとともに、商業・観光振興に寄与する施策を進めるものです。諸外国で行われている道路利用者からの課金制度とは、異なる自動車利用の抑制策です。
3. (仮称) 鎌倉ロードプライシングは、1年を通して実施するものではありません。著しい交通渋滞が発生し、実施効果が高い、年間 50 日～120 日程度の土日祝日の交通混雑する時間帯に実施することを想定して検討を進めています。
4. 課金額については、日常生活に利用する市民と、来訪者を同額にすることは考えていません。市民の負担については、市民と来訪者の道路の利用頻度の違いを考慮し、来訪者に比べ0～1割程度の負担を想定して検討を進めています。
5. 交通渋滞が解消することにより、移動時間の短縮、燃費の向上、交通事故の危険性の低下、緊急車両の到達時間の向上、バスの定時性や速達性の向上などの効果があると考えています。

## (仮称) 鎌倉ロードプライシングの検討経緯

- 鎌倉市は、歴史的遺産や自然環境を有する観光都市として、四季折々の見所を有し、毎年多くの観光客で賑わっています。(平成 25 年の延べ入り込み観光客数は 2,308 万人)
- 鎌倉の観光拠点である鎌倉地域は、南側の相模湾と三方の丘陵部による城塞都市として鎌倉時代に造成され、地域外との交流は七つの切通しで行われてきました。現在に至るまでの間には、海浜部の国道 134 号、横浜横須賀道路の朝比奈インターチェンジを結ぶ幹線道路網等が整備されたものの、道路網は、鎌倉時代の形態を踏襲したものとなっています。



- 鎌倉地域に多くの来訪交通が集中し、休日の中でも特に連休等においては、地域の動脈といえる幹線道路が渋滞し、生活道路への流入交通の進入、歩行環境の低下、バスの定時性や速達性の低下、緊急車両の到達時間の遅れ等、市民の居住環境の悪化を招いています。
- 交通渋滞を抜本的に解決していくためには、道路整備や駐車場整備を進めることが必要ですが、歴史的環境の保全など、様々な制約を抱えているため、短期的での道路整備等は困難であり、何らかの方策で自動車交通量の抑制を図ることが必要です。
- 平成 24 年に行った市民アンケートでは、「鎌倉地域で生じている交通問題についてどのようにお考えですか?」との設問に対し、「深刻であり、対策が必要(耐え難いほど深刻)と回答した人は、全体の約 4 割に達しており、特に鎌倉地域で顕著となっています。さらに、「やや深刻であり、対策が必要」と回答した人も含めると、全体の約 8 割に達しています。



- 本市では、鎌倉地域の交通問題の解決に向け、平成 13 年からは、自動車から公共交通への利用転換を促す、パーク&ライドや鎌倉フリー環境手形などを実施しています。本施策の利用者は、協賛店や寺社等で割引等のサービスを受けることができ、利用者数は年々増加傾向にありますが、依然として土日祝日には慢性的な交通渋滞が発生しており、抜本的な解決には至っていないのが現状です。
- 正月三が日のような交通規制を実施し、自動車利用の抑制を図ることも、交通問題への解決策の1つと考えられますが、正月三が日の参拝者ほどの来訪者がいない他の日に、通行制限をかけることについては、道路利用者からの理解、警察官や交通誘導員等の配置、全国的な広報活動等が必要になるなど、実施毎に膨大な費用負担が発生するなどの課題があります。
- 平成 25 年 10 月に開催された第 5 回鎌倉市交通計画検討委員会にて、松尾市長から自動車利用の抑制策の一つである（仮称）鎌倉ロードプライシングの検討要請がありました。現在、（仮称）鎌倉ロードプライシングの実現化に向けた計画づくりや、実施条件の整理を進めており、その確認された方向性について、鎌倉市交通計画検討委員会・専門部会にて取り組んでいます。今後も、（仮称）鎌倉ロードプライシングについて、鎌倉市交通計画検討委員会・専門部会にて引き続き検討してまいりますので、ご理解、ご協力を賜われますようお願いいたします。

## ■ロードプライシングとは

道路が非常に混雑している地域において、課金によって自動車交通量をコントロールし、道路をスムーズに走行できるようにする方策です。

1975 年に世界に先駆けてシンガポールで運用を開始し、その後、ノルウェー、ロンドンなどで運用を開始しており、交通量の抑制効果が報告されています。

